

性同一性障害 男子寮認めず

女子寮条件に入校「障害知られた」

愛知県が運営する「愛知障害者職業能力開発校」（同県豊川市）で、戸籍上は女性だが男性として生活している訓練生（23）に対し、希望する男子寮ではなく女子寮への入寮を条件に入校を認めていたことがわかった。訓練生は「女子寮に入ること、性同一性障害について他の訓練生に知られることになった」と話している。

愛知県の訓練施設



訓練生は、高校時代に性

同一性障害との医師の診断を受け、裁判所へ改名を申請し認められた。卒業後に勤めた病院では男性として働いていた。昨年、筋ジストロフィーの症状が進行したため、病院を退職。1年製の職業訓練施設である同校に今年4月の入校を希望し、願書には既往症として性同一性障害を記入して、診断書も添えて出した。同校には通校が難しい人向けに女子寮と男子寮がある。この訓練生は杖や車椅子

愛知障害者職業能力開発校

豊川市一宮町

子を使って生活しており、通校が困難なため、男子寮への入寮を希望。入校許可の際、通校生として扱われていたため、問い合わせたところ、性同一性障害を理由に入寮を断られたという。

通校は難しいことを訴えた結果、戸籍上は女性となっていることから、女子寮なら受け入れられると学校側から提案され、いったん受け入れた。しかし、トイレで女性の訓練生と顔を合わせる気まずさなどから、入寮後も男子寮への移動を訴えたが、認められていない。また、訓練中に同校の指導員から「こいつは男装だから」という言葉を投げかけられ、性同一性障害であることを他の訓練生にも知られたとも訴えている。この訓練生は「以前働いていた病院では、性同一性

配慮できるはずだ

GID（性同一性障害）学会理事長の中塚幹也・岡山大教授（生殖医学）の話 男性として生活している以上、男子寮で受け入れることを第一に考えるべきだ。男子寮に入ることができない合理的な理由があるとなれば、職員用の宿泊施設へ入ってもらうなど、何らかの配慮をすることもできるはずだ。GIDに限らず、本人が公にしていないことを他の人に知られるような発言は「アウトティング」と呼ばれ、許されない。教える立場にある人は、研修などを通じて、性的少数者に対する基礎的で正しい知識を持つ必要がある。

障害のことは人事担当者しか知らず、職場では男性として生活していた。不用意な発言で周囲に知られることに耐えられない」と話

施設側「本人と合意」と説明

同校は朝日新聞の取材に対し、「性同一性障害の人の受け入れに前例がなく、当初は通校生として入校を許可した。女子寮に入ることは本人と合意しており、その後も男子寮へ移りたいという意向があったとは認識していない」と説明。指導員の発言について、他の訓練生がいけない場で「性別を使い分けている」という内容に近い発言があった可能性を認める一方、「性同一性障害については他の訓練生に知られるような発言を訓練中にするとは考えられない」と主張している。

（宮沢幸志）